

No.136

ム、民館、だよ、

平成21年6月

宮津市字由良
由良の里センター内
由良地区公民館

最近の話題から

由良地区公民館長 枝川 隆亮

四月七日、桜満開・晴天の日、地区内では、九名の新中学生、五名の新小学生、四名の幼稚園児が誕生しました。

新学童達のほのぼのとしたかわいらしい所作に一瞬のやすらぎを感じました。誠におめでとうございます。

により月一回の会議で検討し本年度中に地区民の方々に冊子で配布したく内容検討を続けています。皆様のご家庭に古い資料・写真などがあれば借用をお願いいたします。また、処分をされるときは、是非公民館にさせてください。

さて、米サブプライム問題で全世界に飛び火した経済危機は百年に一度起ころうと言われています。

早く環境に慣れ、勉強に運動に頑張ってください。中学生の諸君達は、大きな目的を持ち、将来の基礎づくりに励んでください。

会社が倒産したり、物が売れなくなり、仕事を失う人も増えています。きっかけは一年以上も前だったか、一向に改善の

兆しが見えてきません。国内では、振り込め詐欺に続き、近々給付される生活給付金に目をつけ搾取しようとする者達が他人の財布を虎視眈々と狙っています。最近の新聞によると不況により私立高校が敬遠され、都市部を中心に公立志願者が殺到、例年には不格合者を出していません。

学校まで不況が反映されるのは、なげかわしい現象といえます。

地区内では、生活物資の提供先である「にしがき」の撤退、小学校・幼稚園の統廃合問題、海岸では由良川河口の減少、脇浜の大規模な土砂流出など暗いことが続いている。

今年度の事業は好評のグラン

ドゴルフを二回実施し、女性の優勝者に表彰を考えていました。たくさんの女性の参加をお願いいたします。

さて、公民館では念願の「由良の歴史年表」の編纂に着手しております。各地区からの委員

たがそうではないと思う。緻密な計算に基づく練習や食事に神経を尖らせ黙々と努力してきた。人一倍责任感の強い人と感じた。今年三十六歳、過激なスポーツで神経をすり減らし、視力も少しづつ衰える年齢、少しでも選手生命を永く持続し、私達日本人に勇気を与えて欲しいものです。

由良地区公民館も四月から新しい役員の皆様に参加をいたしました。平成二十一年度がスタートしました。

ドゴルフを二回実施し、女性の優勝者に表彰を考えていました。

公民館は生涯学習の拠点であること認識し、今年度も努力を続けてゆきたいと考えています。

行事報告

主事磯田充亮

◎二月二十八日(土)

生涯学習講座(人権学習)

今年は「行経クラブ」から紹介を受けた府立海洋高校生徒指導部長、レスリング部顧問、三村和人教諭による、テーマ「世界にタックル」～固定観念にとらわれないの講演がありました。

初めに過去オリンピックのレスリングで日本選手が活躍した名場面のビデオが上映され、後にレスリングのルール等について説明がありました。続いて本題の「世界にタックル」について、井上謙二、伊調千春、正田絢子等オリンピックメダリストを育てた経験から、青少年育成のお話がありました。

主な内容は

一、素質があるとは「努力し続ける心、身体、基礎技術」と思っている。中でも、頑張る心でルールを守り、人の話を良く聞くこと。人への思いやりと素直さです。人から応援される人間になれ。ピンチに陥った時こそ頑張るのは「日頃世話になつてい

る人のため」と思う心。すなわち人間同士のつながりが大切です。と力説していました。

二、大人として指導者として大事なことは

(二) 最終到達点を予想される目を。(本物を見て判断してほしい)

(三) 様々な経験が良い指導者を創る。(コミュニケーション能力を養つてほしい)

(三) アイデアに限界はない。(「できん」と言う言葉は禁句。何事も挑戦してほしい)

三、三つの知ろう(本物・集団の力・親の思い)

田舎は本物に遠いから親子で都会に行き本物に触れる時間を作つてほしい。

分も伸ばされる。悪い集団は衰退する。

四、子供を他人に託す大切さ
足をひっぱる親がいる。良い指導者に託すと子供は成長する。
次に「固定観念にとらわれない」のお話がありました。

各行事は日付を変更するだけで進歩がない。二泊三日の修学旅行で和歌山まで廃材を送り小屋を建て自炊したこと。子午線に沿つて明石まで歩いたことがあった。反対もあつたが「この集団に何を与える、今生徒に必要なのは、今しかない」と訴え実行した。卒業した生徒は、交流を重ねている。

又、古いバレー ボールを持つていない国に送つたお話等アイデアはいくらでもある。自信を持つて実行してほしいと苦労話も加え、感動するところが多くありました。

目標を持つて何事も熱心に取組めば人はついてくる。本物に組み合いで自分を磨く大切さ等教えていただき、学ぶことの多い講演でした。

◎四月二十九日(水) 昭和の日
第四十三回由良岳登山

雲一つない青空の元、恒例の

由良岳登山を実施しました。地元宮津市や舞鶴市、福知山市等遠方からかけつけた親子連れ、六十代後半のグループ等、百八十六人(登山証明書発行数)が参加しました。

中には東京からこの日のため帰郷した人、八十三歳のお年寄りや三歳の子が含まれていました。参加者は新緑に包まれた登山道を歩き春を満喫しました。子供達には下山時松原寺からいただいたお菓子を渡しました。

今年も登山の前日(二十六日)雨の中、由良観光組合、ボランティアの方十二名がチエンソーや草刈機を担ぎ上げ、登山道の整備をしていただきました。

登山当日、新しい切株を見て「今年もお世話になつたのですね。ありがとうございます」とお礼の言葉を言ってくれた人もいました。

ありがとうございました。

やわらかい体・やわらかな心

由良幼・小 校園長 山 本 文 雄

幼児・児童の体が堅い。ケガすらしなく、体を動かすことが少ない。柔らかいのは、指先だけではないだろうか。もつと体

を動かして、せっかくの人の機能を発達させないといけない。

ケガをしてでも覚えることも必要と考えている。今のうちに体を動かしていないと体力はつかない。

中学校へ行くと、勉強やクラブ活動で忙しくなる。クラブでは、どうしても限られた動作となる。やわらかくて、リズミカルな動作は若いほど身につけやすい。

リズム感があり、体がやわらかいと応用力があり、基本的な動作も身につけるのに、のみこみが速い。しかも、ケガも少ない。やわらかい体を作るのには、

大きな動作、危険な動作、思いきりのびる、のばすあそびが必要だと思う。その一つが木登りである。

細い枝の先まで登るのです。枝ぶりのいい松の木や、ひくいみかんの木では話にならない。簡単な木よりも、むずかしい木がよい。思いきり手を伸ばし、やつとにぎることができる枝、片足をしつかり踏んばっていないと次の足場に片足をかけることができない枝、片手で自分の体重をぶらさげ、ささえる片手の力。そんな木にのぼり動作をくりかえす。

枝がなければ、幹をだきかかえ、足は幹をはさみ、足とだきかかえた手をバランスよく対応させ上に登っていく。途中で、足に力が入らなくなれば、だきかかえている手は、すりきずし

ようが血がでようが、だきかかえたままじやないとすべり落ちる。大ケガをする。でも、すべり落ちたあの体は、今までの体よりもやわらかくなっています。しかも手は、力の入れかげ要だとと思う。その一つが木登りである。

足を枝の二叉や三叉にからみつけてしまふと、両手があき、栗にしろ、アケビにしろ、山なし、山モモなどおいしい果実がとりほうだいです。

からみつけた、足のひざ、足首、股関節、とんでもなくやわらかくなっている。

大人に「・・・してはいけません」と言われることは、必要だが、見守つて挑戦させることをさせてやつてほしい。

自分の体力を知らずに、やる気満々の子が、あとのことを考えずに、この体制に挑戦をし、足をからめたまま、頭も体も手もぶらさがつたまま、足が枝からぬけなくなつて、からまつたまま先輩や友達に助けてもらつたものです。しかし、その子の体はやわらかくなり、次からそんな失敗はしなくなるのです。

もすることも必要ではないのでしようか。

今は防具がそろつて、色々なことが安全にできるが、そろつてなくても防げる智恵も必要である。ケガして、血流して、いたみを覚えることも必要である。

足を枝の二叉や三叉にからみつけてしまふと、両手があき、栗にしろ、アケビにしろ、山なし、山モモなどおいしい果実がとりほうだいです。

こんな宝物ばかりの由良の里、もつともつと山、海、川とつながりをもつて、体も心もやわらかい子になつてほしい。

私の足首がやわらかくなつた遊びその一、「奈良海岸への魚つり、海草取り」

一年を通して奈良海岸へは遊びに行く。栗田の脇から由良のたんぼ（今のお祭り紫城舞）まで、時間があれば大岩まで行った。

大好きな場所は、二子岩の浜、

かわいいめずらしい小さな貝がらの種類が多いからです。しかも、岩場でなく、美しい白い砂浜で移動が楽なのです。

栗田の脇の小磯から竹ザオと腰にはオロナミンCドリンクのびんに、朝早く起きてとつたエサとなるトン虫を入れて出発です。



絵:みもりあきら

岩から
岩へピヨ
ンピヨン
と跳びう
つり、つ
り場を移
動するの
です。その岩は、すべて形はち
がい大きさもちがう。平らな
岩などありません。足首は、そ
の岩に対応し、時には、グニヤ
とくじいたりする。それが足首
をやわらかくしたのかもしれない
い。

今から四十年～五十年前、ま
だ林業は行われていた。
山の中腹から伐採した木材を
運び出すのに木馬というソリ
が使われていた。山道には、ソ
リがすべりやすくするようにコ
ロがしきつめられ、グリースが
いっぱいぬられていた。木馬に
は、数百キログラムの材木がワ
イヤーでしばりつけられて、途
中で荷くずれしないようにされ
もパンツもシャツもズぶぬれで

す。岩陰ですっぽだかになり、
ぬれた服をしんげんしぶり、つ
めたい服をもう一度着るので
す。魚つりを続けるのです。
今から思うと、足首も体も運
動をしていて熱を持っていたの
で、つめたい服がアイシング効
果で冷やしていたことが、遊び
を持続でき、体も冷やせたので
す。天気が良いと、二時間もす
るとパンツも乾燥し、服には塩
の結晶が白くついていたもので
した。

足腰がやわらかくなつたこと その二、「木馬引き」

今から四十年～五十年前、ま
だ林業は行われていた。

やわらかい心・ささえあう心
やわらかい心を持つた人間に
なりたい。苦しいこともいっぱい
いしないとだめなんでしょうね。
大変な介護を何年もされてい
る人は、その人にしかわからな
い心があるんでしょうね。

車イスの人が、石ころ一つで
車が動かない。移動するところ
に自転車一台とめてあるだけで
障害となると言われていること
が、その時はわかつた。なつて
いないとわからない。

他人のことを理解せよと言

が、本当にむずかしい。やわら
かい心、堅い心よりもよいものと
わかっているが、やわらかい心
も体験いっぱいしないと持てな
いのででしょうね。

子ども達が、やさしい心を持
ち、やわらかい心となるのには、
保護者の方が子ども一緒に体験
しないと育たない。保護者、親
がやわらかい心をもつために、

い、病院の玄関をハイハイして
受付に行つた。家では、家内に
食事を口に運んでもらつた。横
になつたまま食事をした。トイ
レへも行けない。部屋の敷居、
レバも行けない。

普段なら一センチメートルぐら
いの高さの敷居など、つまづき
もしない。ところが、その時は
ひっぱる力だけではダメです。

荷が傾くとこけます。二つの力
を必要とします。

運動会のつなひきは、数秒を
何回かですが、この手伝いは、
一日何回もします。しかも一日
でなく何ヶ月です。おかげで、
私の背筋力は、やわらかい大
きな力が出るものとなつたので
しうね。

他人のことを理解せよと言
が、本当にむずかしい。やわら
かい心、堅い心よりもよいものと
わかっているが、やわらかい心
も体験いっぱいしないと持てな
いのででしょうね。

子ども達が、やさしい心を持
ち、やわらかい心となるのには、
保護者の方が子どもと一緒に体験
しないと育たない。保護者、親
がやわらかい心をもつために、

苦しいこと、つらいこと、人と
かかわりあうこといっぱいいつ
ぱいしましよう。それは、子育
てしているのと同じだと思う。
子は親の背中を見て育つ。

地域も見られている。由良が
元気になるには、つながりが深
く、みんながやわらかい心をも
つために動くことだと思う。口
だけでは育たない。

PTA活動方針について

栗田中学校PTA副会長 由利典久

初夏の爽やかな季節になりました。

由良地区の皆様には、日頃よ
り資源回収行事、体育後援会贊
助会費等PTA活動にご協力、
ご支援いただき誠にありがとうございます

栗田中学校も四月には新一年

生に二十四名（由良地区九名、

栗田地区十五名）が入学いたしました。全校生徒数は九十五名となり、私が在校していた時代から比べますと、三分の一程度の生徒数となつておりますが、やはり時代の移り変わりを感じざるを得ない状況です。

由良地区でのボランティア活動の取組につきましては、例年、由良浜の清掃活動やKTR由良駅周辺の清掃等を実施しておりますが、ご存知の通り、昨今では各個人が何らかのボランティア活動に参加することは社会生

活の上で、ごく普通の行動であるようになってきています。

そもそも「ボランティア」とは、「意志」「善意」の意味を持つラテン語の「VOLUNTA S」が語源とされ、ボランティア活動の精神は、「自分自身の生活する社会において起こる社会問題や課題の解決に対し、単に行政や他者に求めるだけでなく、自分自身が自発的・主体的にその問題を解決していくこうというものである。」と言われています。

PTA会員がボランティア活動の取組を支援することにより、生徒達がボランティア活動を始める事の小さな第一歩となり、普段の学校生活では得ることの出来ない社会性、連帯性、出会いやコミュニケーションを学び、また、自分達の生活や「ふるさと」を見つめ直す良い機会になればと考えています。

最後になりましたが、由良地区の皆様には今後共、生徒達を暖かく見守っていただきますよう、どうぞよろしくお願ひいたします。

今後共に、ボランティア活動の取組が更に発展していくよう、PTAとしても生徒達を支援して行きたいと思います。



絵：みもりあきら

「教育について」

由良小幼PTA会長 中 西 利 一

風薫る、さわやかな季節となりました。

由良地域の皆様方におかれましては、日頃よりPTA活動にご理解とご協力を頂き、誠にありがとうございました。

PTA活動方針「豊かな心を持ちたくましく生きる園児・児童の育成」をモットーに今年度スタート致しました。

この活動方針の根幹でもある食事は、「時間を守ること・与えられた物に感謝する礼・自分が食べる場所を清めること・自分の行動に責任を持つこと。」これらが基本になります。目の

前の食物を、ただ口に入れればいい、お腹がいっぱいになればいいのではないのだということを子供たちと一緒に私たち保護者も考えなければいけません。私は仕事柄、魚食普及に努め

ております。最近になりようやく地産地消が見直され、各小学校の給食にも地元の魚を取り扱ってもらえるようになります。

しかしながら、話を聞かせて頂くと、あつてあたり前の骨がネックになり、それを除去してはじめて献立にのせていただけたという地域もあり、これでは本当の意味での魚食普及にはなりません。豊かな海に囲まれた日本が育んできた魚食文化を今一度見直し、自給率向上にも関心を持つていただければ幸いで

爽やかな風と萌え立つような緑に囲まれ、幸せを感じる季節となりました。

思いがけなく今年度、会長を務めさせていただくことになりました。固辞しましたが、「働くいていても負担なくできるようになりました。」というお話で、「頼まれるうちが華」「他の地域の方と繋がりを持つのも大事かな」と思い直し、お引き受けすることにしました。

由良小学校の給食は、調理場長の山本先生、調理員の吉田さん北野さん、給食指導の小谷先生、献立の才本先生、会計の常塚さんにお世話になり、宮津産コシヒカリを中心に旬の食材等

も取り入れていただき、子供たちにとつて、楽しい給食時間をお過ごさせてもらっています。

食育を通じて、家庭教育力の向上、親子のコミュニケーションの促進につながるよう努力しています。

婦人会の現状報告

由良婦人会会長 千 阪 千恵子

たしてきた歴史をもつ婦人会でしたが、フルタイムで働く女性が多くなり、なかなか若い世代の女性に組織の中に入つていただけない現実の中、大きな変化がありましたことを報告します。

一時は百名を越える会員数があつた婦人会ですが、現在会員は六十五名となりました。会員の減少により、石浦地区からは、会員さんが脱会され、支部がなくなりました。敬老会など必要な行事等については、自治会の傘下で協力していかれるそうで

たいと思います。
最後になりましたが、地域の皆様方には、今まで同様、子供たちを時には厳しく、時にはやさしく見守つていただきたく思います。

す。

また、宮津市連合婦人会からの脱会について、数年来の検討事項となつておりましたが、昨年、脱会が承認されました。そんな中ですが、ちふれ化粧品・昆布については、支部の自由販売でお願いしたいということでした。昆布については、品質に定評のあるものです。文化祭で販売いたしますので、ご協力よろしくお願ひします。

昨年、これから婦人会活動についてアンケートをとり、今後の方向性を考える取組がありました。「負担を感じる」という意見もありましたが、「気軽に参加できる取組をしてほしい」「婦人会は他の地域の人とつながれる場として大切」といった意見も多くありました。

「誰にでも気軽に無理なく参加できる婦人会の活動づくり」ということが当面の課題となっています。

先日、婦人会OBの方のお宅

台風による災害時に炊き出しをしたことが、「ボランティアする、できる力」になつたことなどを話されました。「組織があつて初めて楽しいことにも参加できるでしよう」と組織の良さも語られ、「できることは手伝うからね」と温かい言葉もいたりました。生き生きと話される姿に考えさせられました。

新年度の本部役員四名は、全員フルタイムで働いており、思うように活動できませんが、この度、思いがけなくも伝統ある、由良子供会連絡協議会会長の職を仰せつかり、大変な戸惑いと緊張を感じております。子供会へ参加して、まだ二年ということもあり、まだまだ会長の器ではないことは充分承知いたしておりますが、子供達のために微力ながらも全力を尽くす所存でございます。由良子供会員ならびに由良地区の皆様方、何卒ご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

この度、思いがけなくも伝統

ある、由良子供会連絡協議会会長の職を仰せつかり、大変な戸惑いと緊張を感じております。子供会へ参加して、まだ二年ということもあり、まだまだ会長の器ではないことは充分承知いたしておりますが、子供達のために微力ながらも全力を尽くす所存でございます。由良子供会員ならびに由良地区の皆様方、何卒ご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

皆様には子供会活動に積極的にご参加頂きますとともに、時には子供達を叱咤激励し、子供会を盛り上げて頂きたいと考えております。

皆様方にはご苦労をおかけすること多々あるかと思いますが、ご理解とご協力を重ねて下さい。

この度、思いがけなくも伝統ある、由良子供会連絡協議会会長の職を仰せつかり、大変な戸惑いと緊張を感じております。子供会へ参加して、まだ二年ということもあり、まだまだ会長の器ではないことは充分承知いたしておりますが、子供達のために微力ながらも全力を尽くす所存でございます。由良子供会員ならびに由良地区の皆様方、何卒ご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

皆様方にはご苦労をおかけすること多々あるかと思いますが、ご理解とご協力を重ねて下さい。

由良連絡協議会会長に就任して

由良子供会連絡協議会会長 小室博嗣



絵：みもりあきら

時は今 今こそ求められる由良松寿会の底力

由良松寿会 会長 岸 田 博 司

桜花爛漫と咲く四月上旬、由良岳の麓にある国民宿舎 丹後由良荘において平成二十一年度の由良松寿会の総会が肃々と執り行われ、その席で今年度から熊田良雄前会長の後任として選出されました岸田です。就任にあたり所信の一端を申し述べさせて頂きます。

一、由良地域の現状認識と松寿会員の果すべき役割

近年、由良地区の少子化のスピードが急速に速くなり、園児と児童の数が激減し、反比例して高齢化が急激に進展し、高齢者（由良松寿会会員は六〇歳以上）の人口が急増しています。

園児と児童の数が減るという事は当然の事ながら、その父兄の数も減る事であり所謂、縮小均衡の状態となつて、由良地区

りませんが、せめて高齢化によつて増加した高齢者を由良松寿会に積極的に加入を求める受け入れ、高齢者が保有する、すぐれた知識技能と豊富な人生経験、忍耐力ある気力と巾広い人事業者、金融機関も含め顧客が少なくなり閉塞した状況になつてきております。その結果地域から元気さが失われ、経済活動も含め活性化が無くなり停滞状態に陥る事となり益々不況となつります。卑近な例として民宿の減少、JA由良支所、スーパーにしがき由良店の由良からの撤退等が挙げられます。

二、老友会から松寿会へその歴史的変遷と新時代への即応力

皆さん、ご存知のとおり由良松寿会は平成十五年に由良の地域社会に奉仕、貢献する団体として生まれ変わるため、喧々譁々激論の末、「由良老友会」から新生『由良松寿会』と名称を変更致しました。そして会員

三、無くした『打出の小槌』は発想の転換でカバーする。

由良松寿会は、旧老友会の会員が元気で活力あつた頃から、美しい由良海滨を目指してやつて来る海水浴客を相手に駐車場の営業を会員のみで継続してやってきました。天気が良くて来客が多い時は借用していた駐車場が満車となる事もありました。松寿会の唯一の自主財源であり、会員の年会費も安く据

隊、『てんころ』レースの支援、小学校校庭の草刈り奉仕、みかんと花樹の植樹と維持管理、清掃ボランティア活動、まちづくり基金への寄付その他能登半島沖地震災害義援金の拠出等々積極的に友愛、奉仕活動に取り組んでおります。これ等の事により、地域内外のみならず宮津市老人クラブの多くの方々からも好評を得ております。時代の変化を先取りして柔軟に対応して行動が出来る由良松寿会の底力も、見直されてきております。

老人訪問、園児と児童の見回り

え置くことができましたが、台風二十三号による被害のため由良川の水の流れが変わり、美しいかった由良の浜砂が忽然として無くなり消え去つてしまいまし。又高速道路が由良岳の裏を通るようになつたため、車で来ていた海水浴客もほとんど由良海浜には来なくなつてしまい、一昨年をもつて駐車場の営業を中止せざるを得なくなりました。旧老友会の諸先輩や現在も松寿会会員として頑張つて頂いてる先達様には申し訳ない事になりましたが、営業する事によつて生じる、であろう営業赤字をくいとめるべく勇気ある撤退をさせて頂くことになりました。

昨年、駐車場の撤収作業を業者と共同で行い無事終了致しました。昨年から営業はやつておりません。本誌をお借りして関係者に報告させていただきま。長い間お世話になり、有難う御座いました。『打出の小槌』

は無くなりましたが、知恵があります。発想を転換して松寿会の発展と充実に汗と知恵を出します。

四、目指す目標達成、友愛は不滅（入会時から墓場まで）

駐車場営業に努力していた労力を、今後は由良松寿会の目標である健康、友愛、奉仕活動に振り向け健康増進、体育活動、ふれあい助け合い、地域社会に奉仕、貢献する事に全力投入致します。由良松寿会の底力を更にパワーアップしてゆきたいと考えております。

先日、松寿会員の最長寿の方が百二歳で天寿を全うしお亡くなりになりました。三年前の白寿の時には遠来の来客と集まつた地区の多数の聴衆を前に『さんせう太夫からくり唄』を

おられたと聞き、理想的な死に方で大往生されたその生きざまを羨ましく思いました。本人の希望で、えいへいや踊りの曲を見送りに参列した多数の会員の方も『さんせう太夫の最後の語り部』であつた惜しい人を亡くしましたと涙を流して悲しんでおりました。謹んで哀悼の意を表します。安らかにお眠り下さい。

長い間松寿会員として在籍して頂いた貴女は、由良松寿会の輝く星、又誇りでも有りました。本当に有難う御座いました。

尚、当会は友愛事業として、会員が長期入院した場合には見舞金、逝去された方には香典を供えされて頂いております。

五、会員の募集と増強に対する熱き思い

来る者拒まず。去る者追わず。をモットーに大人の組織として今までどおり先人より継承して参りましたが、会員の高齢化により物故者と会費免除者が

増え、会員数が自然淘汰で減少し始めました。今年の総会の懇親会で松寿会の将来を憂い志のある来賓の方々から会員募集に費を集金に来ない、待ち受けの厳しい叱声を受けました。ご指摘を有難く感謝し、真摯に受け止め、早急に是正していく所存です。今年度から会員の募集と増強には積極的に努力をそそぎ、会員数の増加と会員の若返りを図つていきたいと考えております。男女を問わず六十歳以上の方を対象にバイタリティがあり、何事も前向きに考え方行動する人の加入を期待しております。近所に有志の方がいらっしゃれば是非教えて下さい。

(二六一〇五七三) 迄

今後は会長の私が直接入会の勧誘に行かせて頂きます。宜しくお願ひ致します。

由良ヶ岳にはじめて登った

由良小学校五年 大石 たけし

四月二十九日に由良ヶ岳に登りました。いつしょに登ったのは、こうへいくんと、なあとくんと、たくみくんと、しようごくんと、たくやくんと、ゆうたくんです。休みながら登りました。いつのまにかどんどんぬかされていきました。でもがんばって登つていきました。するとなおとくんがぼくたちの中でも一番登るのが速かったです。こうへいくんとぼくだけになつていつしょに登りました。がんばつて登つているといつのもに十合目へきていました。それでつぺんに行くとすごく景色が良かったです。みんなでおべんとうをちょうどじょうで食べました。でもみんなおなかはすいていなかつたし、ぼくもおなかはすいていませんでした。でもなんとか食べました。食べ終わ

ると小谷先生に写真をとつてもらいました。後から小谷先生の望遠鏡で町を見ました。するとぼくの家が見えました。望遠鏡で見てもちつちやかかったです。だからそんな高い所なんだと思いました。その後山から下りました。西の方にも道があつたので行つてみました。そこの道は草がぼうぼうでくまが出そうでした。でも出てきませんでした。しばらく歩いていると、すわる所があつて行つてみるとそこが目的地でした。でも最初に行つたてつぺんの方が景色はよかつたです。でもこっちの方も景色がよかったです。それで下りるときはこうえいくんとしようごくんといつしょにおりました。そのときよくすべる所があつたのでこう平くんが前、しようごくんが後ろに、いてくれました。

登山

由良小学校五年 田村 はるな

四月二十九日に登山に行きました。うらの方から登りました。行きは、お父さんにおんぶしてもらいました。少しづつ休みながら登りました。西に着くと、写真をとつてから、東に行きました。

東までは、自分で歩いて行きました。九合目でこう平君やたくみ君やほのちゃんたちに出会いました。ちょうど上でおべん当を食べました。ちよう上でおべん当を食べました。暑かったりつかれていたのでなにも話さずに食べました。おべん当はおいしかったです。ちよう上の風景はきれいだつたけど、こわかつた

しばらくすべりませんでした。すべりそうな所もあつたけど、だいじょうぶでした。がんばって下へおりていったけどなかなかゴールは見えませんでした。でもあきらめずに下へおりていきました。休けいを取りながら下りていつてみると、いつのまにか二合目に来ていました。ぼくは、ゴールはもうすこしだと思つてこう平くんもしようごくんもスピードアップしたので、ぼくもちよつと速く下へおりて

いました。ゴールはもうすぐありました。そして、ついにゴールが見えました。それでこう平くんといつしょにゴールしました。やつとゴールしたのでうれしかつたです。ゴールしてからおかしをもらいました。もらつたおかしは、トッポです。長い道だつたけどがんばつて登つたり下りたりできてほんとうによかったです。

です。

そして、あづさちゃんとちか
らおかしをもらつたので、おか
えしにチヨコレートをあげまし
た。写真をとつたりして下りま
した。下りるときもお父さんに
おんぶしてもらつたり自分で歩
いたりしました。下りていると
ムササビみたいたいのが前を横切

りました。びっくりしました。

車に着いて車にのると、あせ
がすごく出ました。なぜかとい
うと、車の中がすごくすごくむ
し暑かったです。

一ぱい水の所でタオルをぬら
し暑かったからです。

帰るときじやり道でおしおりが
ビリビリしました。

登山はちょうど上まで登れてよ
かつたです。

由良がたけ登山

由良小学校五年 森田浩平

四月二十九日に由良がたけ登
山がありました。

学校でラジオ体そうをして、
登りました。

行きは五人で登りました。一
合目は楽だったので二合目ぐら
いで休みました。四合目ぐらい

すぎ林になつて色いろな山菜
がありました。ぜんまいわらび
などがありました。東のちよう
上についてご飯を食べました。

小谷先生に望遠鏡をかりて自分
がありました。車に着いて車にのると、あせ
がすごく出ました。なぜかとい
うと、車の中がすごくすごくむ
し暑かったです。

一ぱい水の所でタオルをぬら
し暑かったです。

帰るときじやり道でおしおりが
ビリビリしました。

登山はちょうど上まで登れてよ
かつたです。

「四回目の山登り」

由良小学校四年 岡本はるな

四月二十九日に、由良がたけ
登山がありました。

いつしょに登った人は、いと
このよしきと、よしきのおば
ちゃんと、はやくんと、守く
んとあづさちゃんと、夕紀ちゃん
でした。

次に西のちよう上に行きました。
た。とちゅうにへんな草があつ
て、西のちよう上から下りてき
た人に聞いたら、

「たぶんまむし草やで」
と言つていました。よく見たら、
全体がまむしのはだにいていま
す。

一合目から四合目までは、ぜ
んぜんえらくありませんでした。

でも、ずっとずっとよしき
言つていたのも楽しかつたで

ら天の橋立がきれいに見えまし
た。下山はたけしくんと、しょ
うごくんと下りました。

つらかつたけど景色が良かつ
たので良かったです。

「がんばってください。あと少
しです。」
と言えたことです。

また、転びながらわいわい
言つていたのも楽しかつたで

です。そして下りていつてたけ
しくんと一しょにゴールしま
した。

つらかつたけど景色が良かつ
たので良かったです。

下りたら、すごくすずしかつたです。そして、がんばつてよかつたなあとと思いました。

楽しかつた由良がたけ登山

由良小学校四年 小林美香

四月二十九日に、由良がたけ

十合目までありました。

私は、やく一時間二十分钟かかって登りました。頂上からのけ色は、由良川にかかる鉄橋がしょに行きました。八時半に由良小学校に集まつてじゅんび体

そうをしました。由良の人だけでなく、他の町からも大ぜいの人たちが来ておられました。

いよいよスタートです。国民しゆくしやまでは広い道ですが、すぐに山道に入ります。急な道、まつすぐな道、細い道、いろいろな道がありました。林の中では、うぐいすがきれいな声で鳴っていました。

このような道が、一合目から

次の日、きん肉つうになりました。すごくいたかつたけど、また来年も登りたいです。

昨年完成した「由良岳の案内所」内アンケート箱に次のメツセージが投函されていました。

今後は登山道の整備等に生かしていきたいと思います。

内容は次のとおり。

一、雪の由良岳へ登らせてもらいました。素晴らしいながめでした。道標もう少し多くしてもらえないかな? 雪道は分かりにくいです。足あとをつたつて登りました。ありがとうございました。

二十一月二十八日与謝野町T・I△(五八五・一)への道がなくなつていたのは予想外でした。

△(五八五・一)への道がなくなつていたのは予想外でした。

三、頂上近く(コルまで)の杉の坂が大変でしたが山頂からの景色は筆舌につくせない素晴らしさでした。東峰で二時間半程のんびり過ごしてしまい下山するのが惜しくなりました。登山者は、林道が出来たのを残念なような気がして複雑な心境です。林道が出来たことにより自然が壊されないことを祈りました。

四、案内が整備されていて迷う事なく登れました。春がすみで遠方の山々はよく判りませんで

由良岳登山証明書発行数

平成21年1月1日

21年6月1日

557枚

(4月29日登山含む)

由良岳登山者からのメツセージ

三、頂上近く(コルまで)の杉の坂が大変でしたが山頂からの景色は筆舌につくせない素晴らしさでした。東峰で二時間半程のんびり過ごしてしまい下山するのが惜しくなりました。登山者は、林道が出来たのを残念なような気がして複雑な心境です。林道が出来たことにより自然が壊されないことを祈りました。

三、頂上近く(コルまで)の杉の坂が大変でしたが山頂からの景色は筆舌につくせない素晴らしさでした。東峰で二時間半程のんびり過ごしてしまい下山するのが惜しくなりました。登山者は、林道が出来たのを残念なような気がして複雑な心境です。林道が出来たことにより自然が壊されないことを祈りました。

伝統的ものづくり体験を通して 環境共生を学ぶ

京都府立大学 三橋俊雄

が、彼らの心に響き、深く心に残ったようです。ありがとうございました。

* * *

二〇〇九年二月十六日（月）
十七日（火）、京都府立大学
一・二回生対象の教養教育科目
「環境共生教育演習Ⅱ」、テーマ
「伝統的ものづくり体験を通して
環境共生を学ぶ」を、昨年と

同様の大雪の中、みなさんのご
協力を得て、無事実施すること
ができました。演習では、由良
に伝わる生活文化としての「ワ
ラ筹づくり」「リサイクル紐の
カゴづくり」「ミカン餅づくり」、
そして、「ロープワーク」と「失
禁防止体操」などを教えていた
だきました。

また、由良演習の準備のため
に、材料の調達やカゴづくりの
練習など、私たちの見えないと
ころで、さまざまな時間を割い
ていただきました。

今回も、楽しい、実のある演
習をさせていただき、本当にあ
りがとうございました。

今回の二日間の演習で考え方
が一転した。既に技術がありふ
れた環境である平成に生まれ、
十九年過ごしてきた私を含む私
たちは日常生活をする中で自然
と技術に頼ってきた。そんな中、
今回、昭和を知恵とその腕一つ
で生き技いてこられた御年輩の
方々の行き方を体験し、さまざま
な感情がめばえた。物を大切
づかせてもらえた発見や由良の
みなさまにおしえていただいた
こと、由良でのさまざまな体験

した)を生活の中で意識して「無
理なく、無駄なく、根気よく」
生かしていきたいです。由良で
学ばせていただいたことを何か

の熱心なものづくりのご指導や
人生哲学に係わるお話など大学
の教室では出会えない、味わえ
ない感動と体験をさせていただ
きました。

また、由良演習の準備のため
に、材料の調達やカゴづくりの
練習など、私たちの見えないと
ころで、さまざまな時間を割い
ていただきました。

田さんが「素材を無駄にしない
で、使えるものは有効に使おう」と
おっしゃいました。自然が育
てくれた素材への感謝の心が
あるからこそのことばだと感
じます。また、「手づくり」は
手間がいり時間のかかる作業で
す。でも時間をかけるほど、よ
りいつそう大切に思われてしま
います。

実際に手をうごかすことでき
づかせてもらえた発見や由良の
みなさまにおしえていただいた
こと、由良でのさまざまな体験

会場は山田昭さんのワーク
シヨツプ施設、宿泊は、京都府
立青少年海洋センター、参加者
は、府大学生、ゼミ生、教員の
計三六名、うち女子学生が十七
名でした。

学生たちの感想文

今回は、由良演習での学生た
ちの「感想文」をご報告させ
ていただきます。私の想像以上
に、由良のみなさんに教わった
こと、由良でのさまざまな体験

認識させられた。

日頃勉強にかんしては頭を使っているかもしれない。だが、それは机上のことだけであり、直接生活に関わっていたらどうか?私はそんなことを考えさせられ、現状では人間だめになると感じた。

もちろん、技術の進歩は良いことで、頼むのも悪くはない。科学を学ぶ私たちが進歩を望むのは当然だが、日頃生きていく上での知恵とはまた違う、技術と知恵を使い分けより良い人間環境をつくっていきたい。

* * *

まず、第一印象として、おじいちゃんの家に来たという感じだった。自然があり、雪も降つていて、福井県出身の私にはとてもなつかしかった。ものづくり体験をして思ったことは、技術が進化した分、我々のものを大切にする心が小さくなっていると思った。昔の人々が生活を豊かにする知恵を振り絞つたお

かげで、今の生活ができるといふことを忘れてはならないし、身近なものをもつと大切に使おうと思つた。ほうきなどは上手くはできなかつたが、先輩方が優しく教えてくださつたので、形にはなつた。

最後に先輩方の貴重なお話の中で、特に、「はつきりと自分の意見を出して話すこと」や「まわりの方々がしつかり準備してくださいたおかげでこの演習が成り立つていい」ということが心に残つた。当たり前のことだけれど、今一度その大きさが分かり、よかつた。一言一言に重みがあつて、本当にためになつた。この演習で学んだことをこれから生かしていきたい。

カゴつくりでは、いつもなら捨ててしまうようなテープを材料に、とてもいいカゴを作らせて貰いました。再利用できるかできないか判断し、資源を最大限利用していきたいと思います。

最後の村の人の話にもあつたけど、「時代が進むにつれて文明は発展していくけれど、人の心は逆で、どんどん貧しくならない」と思う。

ほうき作りもとても楽しかつたです。上手くできなくても一つ一つ教えてくれ、ちゃんと仕上がりました。

とても良い体験がたくさんできました。八九才にはとても思えない元気なおじさんから、体操について教えてもらいました。大学生の私達にはまだ必要

ない体操だけど、将来必要になるし、今現在この体操を必要としている人は絶対身の回りにいるので伝えてほしい、という話でした。家族など一人でも多くの人に伝えたいと思います。

その後のロープの結び方についても、なんどもなんども、実際に演して丁寧に教えてくれ、さらには使用法なども楽しく教えてもらいました。

カゴつくりでは、いつもなら捨ててしまうようなテープを材料に、とてもいいカゴを作らせて貰いました。再利用できるかできないか判断し、資源を最大限利用していきたいと思います。

最後の村の人の話にもあつたけど、「時代が進むにつれて文明は発展していくけれど、人の心は逆で、どんどん貧しくならない」と、今回の体験を通じ、日々の生活を見つめ返すと、本当にそう思う。今回の体験は、今後とも役に立つとか、便利だと言うものではないし、別に知らないでも普通に生活しているけど、心には大きな変化を続けるけど、心には大きな変化をもたらしてくれたと思う。山田さんが、「心がむしやくしやした時など、いつでも来てください

い」と最後に言つておられたのがとても嬉しかった。これから生活に生かしたいし、機会があればまた由良に行きたいです。

* * *

私が今回この演習に参加したのは、単に丹後地方に興味があつたからです。また、日本海を見たことがなかつたので見てみたいとも思つていました。

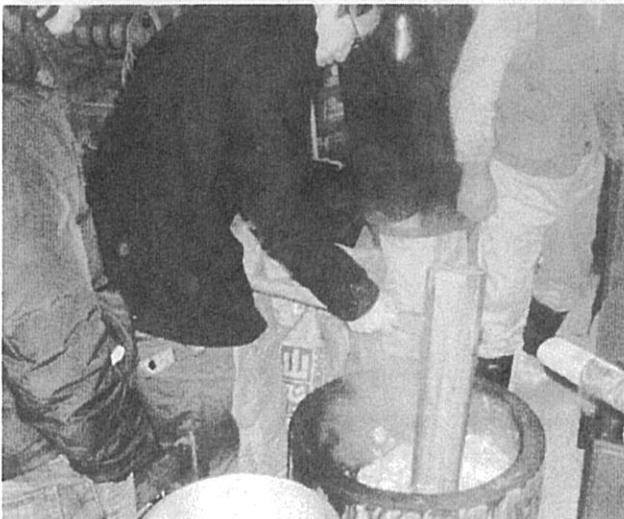
実際に言つて見ると、やはり京都市内よりも寒く雪も降つていて、ああ、なんかテレビで見たことあるような冬の景色だなあと思つてしましました。

私は中学まで沖縄県で過ごしていたので、寒さにいまだ慣れず、二日間の実習の間はひたすら寒さと戦っていました。

けれども、ワラでほうきを作つたり、カゴを作つたりしていのとても楽しく、一瞬でも寒さを忘れる程熱中してしまいました。ワラぼうきは思った以上に力が必要で、由良の先生方

に教えてもらいながら完成させることができたときにはちょっと感動しました。

今回の実習では何もかもが新鮮で、また、モノを一から作り上げることの大変さ、大事さを実感できたと思います。お世話になつた由良の皆さんと先生に感謝したいです。



広島市の“再生”と共に歩んだ私の青年時代

濱野路 大森 孝

(二) 思ひ巡らして幟町のカトリック教会へ!!

他方での学業修得の上では、専門の地理学の講義にあき足らなかつた。その上に待つて卒業論文を書き上げるための外国語の履修を考えざるを得なかつた。そのためには、二回生の中に英語に加えて、もう一つ仏語をマスターしたいと思つていた。

こうした仏語へのこだわりは、私が昭和二十二年に大阪外事専門学校の仏語科に合格し乍ら、入校を辞退したことであつたし、幼ない児童の頃に(勿論、戦時中)に年子の妹がその親友から借りてきた『にんじん・』ジユール・ルナール署、岸田國士訳(白水社刊行)の内容

が軽妙洒脱で楽しいとの印象もあつた。

舞鶴一中で畏敬していた級長の四方彰君が某陸軍幼年学校で外国語としては仏語を学んでいたという印象もベースの一部にはあつた。

そして就中、大阪外事専門学校へ入学して、既に二回生を踏み出している友人金加行雄氏がドイツ語科にいる。又京都市にある日仏学館で、先輩の某氏が既に教鞭をとつている。彼は大阪市のがれで、恵まれぬ中を苦労力行して、学館での教官になれた由。外事専門ではテキストに“G・D・モーパッサン”的『女一生』が使用されているとか。あれこれ、大阪外事専門に関わる情報が、彼と京都で出逢う度あつた。

に豊富に入つてくる。外にも個人情報耳に満載。充ち足りて広島市に到着するのが常。当市に笈を負うて、都市の先進性の中で、同じ世代であり、同じ仏国文化に憧れる一人として何とかせねばならぬ。私のスタンダードは、まさしく関西にあつて、それが消せぬ想いとして、くすぶり続けた。

出汐町の学舎では、『風車小屋便り』(アルフォンス・トーデー作)がテキストになつて、仏語中級を登録履修の手続きをとつたものの、仲々難しい。何しろ、一回生の乃美尾村時代には、空腹のため自炊に明けくれ、専門の社会科分野を受講するのが手一杯で、他を顧みる余裕はなかつたから。体育は出席すれば単位が得られたのだが、これすら押えて村内唯一の製造パン屋(米糠がしつかり入つていた代物)へ早朝買い出しに行かねば入手できなかつた状況下でも

英語購読に出るのが精一杯。ともかく、学習活動が休眠状態で、集まれば戯言の輪か、炊さんのかり返し、大阪(関西)の専門学校に大きく水をあけられてしまつていった。

出汐町の仏語の講師は、文理大でも講義を担当しており、今思い出すのに、物腰のおだやかな教授だった。あれから六十年を経て、現在憶えているのは授業の中で、癒し気味で、間をとつて教えてくれた童謡『アビニヨンの橋の上で』……「ス、ラ、ポン、ダ、ビニヨン、ロンリ、ダンス、ロンリ、ダンス」の全曲が耳朶に残つてゐる。

切羽つまつた私は、想いあまって、幟町の広島カトリック教会の境域を訪れていた。溺れる者は藁をも掴むの心境と、同時に淡い外人への交誼への期待もあつたと思う。これとて関西スタンダードへ追いつきたいとの戦略に立つての行動であつた。

当時、教会には神父は仏国人と独逸人と兩人居られた。他は建物、寺域を管理する年のいつた姉妹の二人と、あわせて四人が常勤であつた。（時として、非常勤の神父が曜日を決めて、見えたりしたか？）ところが私のお目当ての、仏国人のゴオス神父[Gossen]は辯もだめだった。何故なら彼は信徒相手で、教義の初心者には一顧もしてくれなかつた。

止むなくドイツ人の神父H.シフア「フーベルト・シフア Hubert;Schifer」氏のところで、初心者向きの『公教要理』を習得する羽目になつた。それで前者仏人の方はかなり大柄で、詰襟に似た神父のいでたちだつたので、私はケルト系のプルター二ユの出身かな!!と勝手に想像したりした。後者、独逸人の方はスマートで、寧ろ瘦せていた。一年程して米国へ転出して行つた。

(一) 街の様子。

『サロン・オブロモフカ』? の復学(復員予備学生を含めて)した文理大の年上のグループを頼つて、市内牛田東区域内に間借り得るのが、もう少し

ジルからエミール・キルヒヤー神父。年老いた方だった。ドイツ『フルダ』(都市)の出身で、いつも、にこにこと微笑んでおられた温厚で、親しみやすい為人だつた。

それや、これやで教会での仏語学習は水泡に帰したが、今考

えるのに、このように広島へ出てきて、京都や大阪に恵まれている学習環境を自分が求めつけたことは、負荷であり、専攻の地理学科のマスターの時間を阻み、制約を拡げた結果となつて適切な行為ではなかつたと思う。自身の意識の中での未分化、昏迷ぶりが、卒業後の職業人として教育界で生きる上で曖昧さをひきずることとなるのであつた。

二十五年頃には判じ得なくなつた。この場所は八丁堀電停から、白神社電停の間の向つて左側に在つた。

次いで、同じ左側に白神社があつて、取り払われた瓦礫や石材が境内を取り囲む形をしていて。松のような樹木も転がつて、私が四回生を迎える、昭和

昭和二十三年に市内で始めて教えられて、眼を凝らして確かめたものに、とある銀行が崩れないので、一望できる焼跡に残つた鉄筋の建て物の玄関の段差に刻印された、被爆した人の座つた“影”があつた。矯めつ眇めつ見た。だんだん風化してきて、私が四回生を迎える、昭和

私は『サロン・オブロモフカ』(後述)のグループの先輩諸氏につれられて、三度程、客となつて集つていた。

再生の息吹きのあきらかな流川町界隈は、京都の四条小橋にあつた、同種の音楽茶房『フランソワ』とは、同日の談ではな

いが、私には『ムシカ』の方が店の勢いがあつて、後者の安定した佇まいより、近い将来は伸びていくとみた。

最後に原爆ドームの遺跡のあとになるのだが、尚志会館時代に散見した原爆被災のあと等を述べよう。(牛田東区に移り随分歩いて広島駅へ出て、国鉄宇品線で出汐町の方迄通学したので、恣まに市内要部を通らなくなつた)

橋電停の背後にある『広島日赤?病院』が米国の研究用に存在していて、全く市民の加療していないといふ、異色の存在だつたこと。焼け残つた大病院なので余計に訝つた。あれこれ、思いつくままに流川町の音楽茶房『ムシカ』は、盛り上がりをみて、大学生等、音楽に見識をもつ人々が、癒しを求めて集つていた。

私は『サロン・オブロモフカ』(後述)のグループの先輩諸氏につれられて、三度程、客となつて集つていた。

込んだ瓦などを拾うことができた。このあと、市の規則で全く蒐集することができなくなつた。

(三)『サ・ロン・＝オ・ブ・ロ・モ・フ・カ』の人々との交遊。

縁あつて前述の「サ・ロン」の人々に従つて、市の周辺の住宅地域であつた牛田東区へ足を踏み入れて、西本哲男^{にしもとてつお}方で間借りすることができた。戸別にお願いして、脚で稼いだ功である。

この時、サロンの人々と顔見知りであった加藤俊子^{かとうとしこ}方が、西本宅を納得させる力となってくれた。【因みに加藤家は、その夫君と娘さんが、かの昭和二十年八月五日の原爆投下で出勤途上で被爆。死亡】(現在)当町は未亡人俊子女史と息子の九州帝國大学生の卓君と二人の遺族が住んでおられた。

『サ・ロン・＝オ・ブ・ロ・モ・フ・カ』の人々とする呼称とする) グループに会する人々は戦時中、広島高師に在学していた元生徒達であつて、敗

戦後いち早く、母校に復学して居り、私が二回生の時は、大学の三回生にはなつていて、卒論作製のため大学に通つていたのである。そのため、新米の私のように、見るもの聞くもの、総て新鮮で測にと迫る驚異とが情緒面での深甚さはさらさらなかつた。次に述べる高田教授。

当時、京都大学哲学科に転出。旧宅が牛田に空屋として在つた。縁側に仏語原書等が積み上げられさし込む陽光に曝されていても、落着いたものだつた。被爆した各家々の歪みとか、不具合でも余裕のある受け止め方をしていた。さめた態度で、文理大を卒業するため、一つ一つ軌道を歩んでいる日々に映つた。

私は高田教授の旧宅で目にしたものは、表紙の全くない、粗悪ときへ云える、仏語の書籍の山で、縁側びつしりに所狭しとならび山積みされている。私が『表紙もカバーもありません

ね。』と云うと、K・U先輩は、『仏国では表紙も装幀も、凡て所有者が自分の好みにあわせてするものだ。これで当然なんだ』とさらりと言つてのけた。私はこんな沢山の本を一一、所有者が本にするのかな?と詫しだ。ここで話を変えて、年の暮れかつた。次に述べる高田教授。

寒さが一段と加わって、『牛田』で行われる『亥の子』の祭りについて触れてみる。朝夕冷えこんで、泥沼のような狭い田圃で、蓮根が掘られる頃になつた或日の午後、突如、子供達が数人列になつて『亥の子さん』、『亥の子さん』と囁き立てる、家の傍の狭い農道を群れてくる。

私はこんな光景は生れて始めた。偶々、今回始めて区の子どもたちの恒例の行事に出逢つたが、昨年は見ていない。『七夕』のようだが、笛は用いていない。丹後の子供たちの山の神・い

でもない。強いて言うなら、『えびす』さんを子供が祝つてゐるみたいだ。暫く立止まつて見惚れた。

広島市には田舎も併せてあるんだな!いつも通る道の屋根の色のついた洋館からは、よくピアノの練習のしらべが響くが、広島は西の地方にできた、田舎をもつ街なんだ。と思うと、成程親しみが湧いてきた。

今なお焼跡であつても、私の青春時代を育み、伸ばしてくれた広島の街は好きな町である。私を育てくれた頃は、無論、広島城址はあとかたもなく、二の丸御門橋はさっぱりなく、私の学び舎も元陸軍の被服廠の倉庫を使つていたのだつた。けれども、今も懐しいこの街、焼け残つた惨めな姿の原風景、遥々六十四年の軌跡の努力の並々ならぬことよ!!

(平成二十一年一月二十八日記)

もう一度訪れてみませんか！

松原寺境内にある戦死者の忠魂碑は、日露戦争を勝利に導いた旧海軍連合艦隊司令長官の元帥、東郷平八郎が揮毫したもの

度確かめる良い機会ではないでしょうか。

昭和五年頃から由良小学校校庭に立っていたものを終戦後現在の場所に移されました。

戦死された方々の靈を弔うと共に平和であることを、もう一



絵
みもりあきら

平成20年度 人権標語入選作品

宮津市教育委員会 優秀賞

勇気ある その手をだれかが 待っている

由良小学校6年 大森 夢

若狭越前海岸を歩く

港 四 方 俊 一

紺碧の空、青い海、何處迄も広がる若狭の海、平成二年（一九九〇年）の五月三日（木）午前八時、丹後街道を歩く、体力に任せて黙々と街並の中を歩く。一人旅は土地々の古きを訪ね、銘酒名物を食する気儘旅である。若狭は日本海に面したリアス式海岸の農漁村地帯で昔から「都」への海産物の補給地であり丹後国と同様の地域であった。国道二七号線、JR小浜線が丹後と若狭を繋ぐ、その若狭から丹後を見るのも方法ではなかろうかと「青郷駅」に降り立つ。駅を降り立つと眼前に青葉山（六九九メートル）が聳えており、丹後の大江山からも、成相寺からも望まれる若狭の靈峰である。頂上には祠があり、近辺の農漁民の信仰を一心に集めている。北陸か

ら北近畿へ激しく行き交う国道二七号線を横断して海鼠壁の家の前を右折して暫く歩くと青郷小学校の前に出た。校庭から子供の声が響く、数人の子供が野球をしていた。この地区の少年野球とみえる。子供の元気な声は励みになる、「ヨシッ!!歩くぞっ」全身に力が漲る。学校の東側を歩くと関屋川に出る、堤防道路を歩く、海岸沿いの県道に出た。関屋川の東方に青海神社の森が鬱蒼と茂っているのが見えた、青海神社の祭神は伴信友（一七三三）一八四六江戸後期の儒学者、小浜藩士）の「新明帳考証」に「青海首椎根津彦之後也」とあって海洋性の神を祀ったとしている。そして青海神社の西側一帯は「三宅田」（屯倉）の小字があり、大化の改新（六四五）以前の大和朝廷の

直轄地で貢献物や収穫物の倉庫を中心とした地域であった。青海神社は元来、青葉山を遥拝する里宮であった可能性が強く古代の青郷の中心であつたと考えられる。関屋川の堤防道路を行く。五分も歩くと三松海岸に出た、右海水浴場、左は高浜原子力発電所に通じる道路、そしてその先、三松隧道を抜け出た所には安寿と厨司王物語に関する土地があった。安寿と厨司王が丹後由良の山庄太夫に奴隸として買い取られ若狭沖を由良湊に向う途中、嵐に会い洞窟に避難した、その洞窟のあつた所ということであった。又、その先、日引の漁村に「仏礁」と云う岩礁がある。昔、これも丹後の由良の三庄大夫と云う人が「正樂寺」の御本尊正觀音様の御像を盗み出し、船に乗せて持ち去ろうとして海上に漕ぎ出した。しかし夜通し船を漕いで翌る朝になつてもなお日引の浜

で恐ろしくなり、仏様を岩上に投げ捨てて逃げ去つた。その礁を村人達は「仏礁」と名付けた。これは「丹後由良」と「若狭」が昔から密接な関係があつたことを証している。三松海岸沿いの道を東進する。左は若狭湾、右は田園地帯、この地にも歴史がある、これは四世紀から七世紀にかけて起きた朝鮮半島争乱による影響もあってこの時期、朝鮮半島から多くの人々が到来してきた。当時、朝鮮半島では百濟（ペクチエ・くだら）新羅（シルラ・しらぎ）高句麗（コグリヨ・こくま）が激しく争い対立していた、その争いから脱した人々が能登、越前、若狭、丹後、山陰の海岸にある者は漂着、ある者は避難したと考えられる。この時代、朝鮮半島の到来人と共に大陸の文化（漢字、仏教、織物等）が伝わって来た。特に「若狭」と云う言葉は古代朝鮮語では「ワカゾ」（行き来）と云う意味から來たので

はないか？或いは奈良時代から平安時代にかけ東は今津に続く若狭街道、西は丹後街道、南は近江、丹波、山城への交通が開けたと云われ、古代から生活の道、又は官道としての役割を担ったと云われる。古代から生活の道から文化をもたらした道であり、それらの街道を行來した道の集まる土地から由來したとも云われている。又、若狭の神社には大樹「タブ」の木があり、その「タブ」は朝鮮語の方言に見られる「船」を意味する「タンブイ」から由來する。この木で船を造つて「行き来」＝「ワカソ」した。更に「来る、行く」は「ワツソウ、カツソウ」と言い、続けて言うと「ワカツソウ」になる、即ち「若狭」になる、という説話がある。この様に大陸から対馬海流に乗つて流れ着いた人々の文化ではかなろうか？一方「若狭国」の成立は「日本書紀」（七二〇）の分注に「天日槍（中略）近江より若狭国を経て西但馬に至る」とあるのが若狭国の中

初見である、としている。「丹後」との関わりが多いのは「海部」「海人部」「海士」の文字にある。大化元年（六四五）の時代、主に海産物を貢納する集団として、又、水軍としても活躍したと云われ、福井県、北九州、山陰等に多く住んでいた。「海部」と称するのは宮津市府中の「一の宮」の「籠神社」に「海部氏系図」（国宝）が残されており、そこには若狭の海部氏が表記されている。今一つは漁業集団との関り合いで、海部氏の祖神とする「天火明命」は「播磨風土記」に「大国主命」の子とあつて、出雲との関連が考えられ古代日本海文化圏の存在を示している。大国主命は多くの女性と結婚し百八十一人の子を成してゐる。この様に大陸から古く別荘地帯が続き直ぐに旧街道の様相となつた。格子窓、海鼠壁、入母屋造りの家屋が建ち並ぶ。さて、高浜駅前通りを北に海岸通りに出る。そこには高浜漁港、旅館がありその一軒に「浜倉民族資料館」の看板があるので中を見学する。館主自らの案内説明で江戸

又、大国主命は中世以降、仏教の守護神「大黒天」と合わせられて「大黒様」と称せられ祀られている。さて旅を続けよう。足は更に東に向つて進む。浜には波乗りの若者がサーフィンに興じていた。ここから街中の昔の丹後街道を歩く。入り口の三叉路に地蔵様が祭つてある、「立石子安地蔵」、調べてみると、時は天保十一年（一八四〇）立石村（高浜町立石）の千坂長助家に男子が出生しないため、お地蔵様を祭り盂蘭盆に祈願したと云う。以来、このお地蔵様に参詣する人が絶えないと言われば、出雲との関連が考えられた。暫く別荘地帯が続き直ぐに旧街道の様相となつた。格子窓、海鼠壁、入母屋造りの家屋が建ち並ぶ。さて、高浜駅前通りを北に海岸通りに出る。そこには高浜漁港、旅館がありその一軒に「浜倉民族資料館」の看板があるので中を見学する。館主自らの案内説明で江戸

末期、明治、大正、昭和初期の資料が並ぶ、元は漁業で民宿経営をしていたが今は趣味で収集した古物を展示しているとのことで、大変な資料であった。そして城山公園に出ると国民宿舎城山莊があり、そこは高浜城址であつた。昔、若狭の西部を治めた「逸見昌経」によつて永祿八年（一五六五）築城された城である。ここで当時の若狭と丹後を巡る争いを舞鶴東図書館・高浜町立図書館・同資料館・府立図書館・敦賀市立図書館の資料に基づいて書いてみよう。始めに「逸見昌経」氏の出自は今を遡ること約七百年程前、「源氏」と「平氏」が生れた時代である、源氏とは弘仁五年（八一四）皇族に源朝臣の姓を与えて、臣籍（皇族以外の者、つまり國民）に降したのであり、嵯峨天皇が皇子、皇女八人に与えた嵯峨源氏に始ると云われ、そもそも

も「源」の名の由来は中国の北魏（三八六～五三四）の武帝が行儀の優れた子に対し、これを称えて与えたと云う「魏書」の故事によると云われる。嵯峨天皇に続いて仁明（八三三）文徳（八五〇）清和（八五八）陽成（八七七）光孝（八八四）宇多（八八七）醍醐（八九七）村上（九四六）花山（九八四）三条（一〇一二）等の子女が「源」姓を得た。又、「平」の姓は桓武天皇（七八二）が平安京を定めたことに由来すると云われ、天長二年（八二五）仁明、文徳（八五〇）、光孝（八八四）天皇の諸皇子の王子や孫王が「平」朝臣の姓を賜わり臣籍に下つた。その「源氏」が各地の地名を付けて領国を支配し、清和天皇から出自した鎌倉幕府（源頼朝一族）を始め甲斐（山梨）源氏の武田一族（武田信玄）、逸見一族があり、更には栃木県の足利一族、そこから出自した足利幕府（室町幕府）があつた。

故に高浜城主逸見昌經は清和源氏の出自であり同じ源氏の系統である。現甲府市の西部が逸見氏一族の住居したところである。その逸見氏は安芸守護（広島東部）武田氏の家臣として仕えた。ところが室町幕府の足利義教将軍の指示で若狭守護一色義貫が武田に撃たれることにより武田守護とともに安芸から若狭高浜に来たのであつた。ここで丹後と若狭の争いの要因について調べた（愛知県一色町立図書館、福井県敦賀市率図書館等々）一部を記してみよう。

足利四代に「泰氏」（一二一六～一二七〇）が父足利義氏、北条泰時の娘を母として誕生したのである。家格は「北条家」に次ぎ、將軍が鎌倉の屋敷を訪れる事がしばしばあり執権北条氏とほぼ対等であつた。泰氏は北条泰時の孫（北条時氏の娘）を正室とし鎌倉幕府で活躍した。源氏の正統が途絶え、北条氏が台頭する時代であった。この時

代、足利泰氏は二十二才の若さで丹後守となり建部山（舞鶴市下東）に山城を築いた。又、尾張守にもなり、尾張、三河地方に尾張守を務めた。足利泰氏はも治めた。そして三河領主、桜井俊光の娘を側室とした、当時の正室の他に側室を数人持ち、更にはその他の女性を持つのが男であった。足利泰氏も北条家から正室を迎へ、他に側室、その他の女を持ったため子息は十人近く、否、拾数人の子女をもうけたのである。当時、男は名を成して独立できるが女は政略の道具であった。桜井俊光氏は吉良莊（愛知県吉良町）に住居し鎌倉幕府の要職にあつた足利泰氏に側室として娘を差出したのであった。その娘が泰氏の子を宿したので隣村の母親の出身地（現一色町）で出産し、そこで生育した、故に一色氏を名乗る「一色公深」と名付けた。「一色」とは七町八反（七八〇平方メートル）の用地（水田）を持ち一種類の税を納めればよい特権地で

あつた。一色公深の土地は現一色町の中心地で海に面した最高の地であった。丹後守（国司）と尾張守を務めた。足利泰氏は軍事の権限を有したが後年、僧籍を幕府に無断で得たので左遷されたのであつた。故に公深は山伏（仏道修行のため山野に生活する僧）であつたとも云われている。公深の子「範氏」自身は建武元年（一三三四年）足利尊氏が武藏（東京・埼玉地域）の守護になつた時にはその代官であつた。丹波篠村（亀岡市篠町）八幡宮で挙兵した足利尊氏の軍には当然参陣し行動を共にした。建武三年（一三三六年）三月、敗れて九州に落ちた尊氏が多々良浜（福岡市東区）の合戦で菊地一族に勝利して東上した後、一色範氏は九州の支配を任せられ鎮西（軍事、行政、裁判を統轄する所）管領となつた。しかし実際に与えられた職権は幕府に味方する九州の武士たちへ

の軍事指揮権が中心で訴訟の判断権もなく、ただ事実関係を調査して内容を幕府に報告し幕府の決定を執行するというものでした。しかしながら、しかも在地の守護たちは常に軋轢があり、中でも北九州に大きな勢力をもつ少弐氏は鎌倉時代から九州の盟主を自認しており、少弐頼尚は事々に一色範氏と対立した。範氏は九州国人を組織化するため少弐氏を排斥した。それに九州武士団の惣領に働きかけ、惣領をして一族を統率させようとした。これは惣領の支配力が強い東国武士団には有効であつたが惣領の支配力が低下している九州では適格な方法とは云えなかつた。その様な中で貞治（一三六三～一三六七）年中に子息の一色直氏、範光が九州の父（範氏）を援けに下向して来たことは孤立無援の觀のあつた範氏にとって心強かつた。しかし一色直氏、範光も九州各地を転戦したが効果なく、少弐頼尚との対立も観応元

年（一三五〇）肥前守護に直氏が任命されると頂点に達した。延文元年（一三五六）範氏は直氏、範光を残して上洛し、延文三年（一三五八）尊氏（五四才）没したので直氏、範光も九州を引揚げ上洛した。貞治五年（一三六六）範光は「若狭守護」に任命された。当時、若狭は日本海貿易の湊があり都にも近く最も良の若狭国であつた。そして範光の子「詮範」が継いで、三河（愛知県）と若狭守護となつた。一色家は代々庄領主となつた。一色家は代々京都室町に在て将軍側近としてこれを補佐し、国元は守護代を置き遠藤遠江守が代行した。明徳四年（一三九三）丹後国内が安定したと思われる頃、將軍足利義満は丹後国九世戸（天橋立）へ参詣し、若狭国高浜、小浜と巡遊し、以後七回に及んだ。一色家は黄金期を迎えるが、足利義満は丹後守護山名播磨守満幸は父陸奥守氏清とともに足利義満に叛し、京都へ攻め上った（明徳の乱）待ち構えていた義満は一色詮範、満範父子に命じてこれを打たせた。明徳三年（一三九二）正月、一色詮範は戦功により旧領に加え若狭

国（今富庄（福井県小浜市））を与えられ、子満範には山名満幸の所領であった丹後国を与えた。故に「丹後守護一色累代記」には初代、一色満範とし丹後、若狭、三河、尾張国知多郡、同海東郡分郡守護、若狭国今富庄領主となつた。一色家は代々京都室町に在て将軍側近としてこれを補佐し、国元は守護代を置き遠藤遠江守が代行した。明徳四年（一三九三）丹後国内が安定したと思われる頃、將軍足利義満は丹後守護山名播磨守満幸は父陸奥守氏清とともに足利義満に叛し、京都へ攻め上った（明徳の乱）待ち構えていた義満は一色詮範、満範父子に命じてこれを打たせた。明徳三年（一三九二）正月、一色詮範は戦功により旧領に加え若狭

（つづく）



参考資料

- 戦国全史（講談社）
- 一色軍記（舞鶴市立東図書館）
- 小浜市史（小浜市教育委員会）
- 敦賀市史（敦賀市教育委員会）
- 美浜町誌（三浜町立図書館）
- 高浜町誌（高浜町 図書館）
- 韓国の歴史（明石書店）
- 中国の歴史（谷昌之 東京美術）
- 舞鶴市史（舞鶴市立西図書館）
- 丹後一色関係資料
- 丹後守護一色累代記
- 加佐郡誌（舞鶴市立東図書館）
- 一色累代記

由良地区公民館（由良の里センター）は住民の貴重な財産です。利用される方は、以下の心得を守つてください。

防災の心得

- ① タバコの後始末は確実に
- ② ガスの元栓は必ず閉める
- ③ 蛍光灯スイッチ・電気コンセントは切る。
- ④ 室内外の整理整頓
- ⑤ 石油ストーブへの給油は火を消してから
- ⑥ 火を使つている時は、その場を離れない
- ⑦ 冷暖房のスイッチの確認
- ⑧ 万が一の場合には消防119番へ
- ⑨ ゴミは持ち帰ること
- ⑩ 最後にもう一度火の元・戸締まりの確認

防火管理責任者
由良地区公民館長



生涯学習講座



由良岳登山

2009 (H21) 六月

この号が発刊される六月頃には、農家の皆さんは田植をすっかり終え、さなほり休養を満喫されている頃だと思います。丹後米のおいしさを証明をされています。丹後地方は二年連続で品種特Aを保持しています。丹後米のおいしさを証明をされています。丹後地消の考えから私達も農家の皆様に感謝をし丹後の特Aを毎日食べようではありませんか。お米には、栄養がぎっしり詰まつていて脳の発達にも貢献するそうです。四月二十九日恒例の由良岳登山には一八六名の登山者で大いに賑わいました。昭和四十二年（一九六七）から始まった由良岳登山は四十三回を迎え、年間千二百余名の登山者に愛されています。東西峰山頂からの展望は若狭湾・丹波の山々、天橋立などが眺められこの山の魅力になっています。特に東峰からの眺望に人気があり、私財を投げ打ち多年にわたり整備をされ虚空蔵菩薩を祀られた中西与作夫妻に私たち後輩は感謝しなければなりません。（枝川）

編集後記